

# びわ湖トラスト親子環境学習講座 ～湖岸調査～ 報告書



認定NPO法人 びわ湖トラスト

実施日 : 2022 年 8 月 2 日 (火)  
後 援 : 大津市教育委員会  
協 賛 : 公益財団法人 平和堂財団  
参加者 : 13組 30名 (大人: 15名 ・ 子供: 15名)  
スタッフ : 17名 (OPAL以外の講師・ボランティアスタッフ含む)

## 行 程

9:20 受付開始  
9:25 開校式  
          オリエンテーション  
  
9:35 2班に分かれて  
          カヌー体験  
          生き物調査  
  
12:15 閉校式



今回は近畿大学の学生の方が9名もボランティアとして参加してくださった。

参加者は体調不良などで今回は特に事前にいただいた欠席連絡が多かった。受付にて検温を実施し、全員がそろったところで開校式とオリエンテーションを開始。去年は雨で時間をずらしたが、今年は本当にいい天気で、写真を撮っても大変きれいな空が映える。ただ、今までにないほどの強風で、カヌーが大変ではないかと予想された。



まずは全員で記念撮影。少々まぶしいのを我慢していただく。

この後すぐ2班に分かれ、

- ・カヌー体験
- ・生き物調査

を1時間ほど交互に行う。

カヌー体験は噴水の前に、生き物調査は開校式と同じ場所にそれぞれ集合して講座を開始した。

### 【カヌー体験】

岸辺に集合して、オールを持ち方・漕ぎ方、足の置き方、そしてライフジャケットの装着方法を習う。親子2人乗りや1人乗りによっても使うカヌーが違うので、座席の位置も確認も必要だ。一通り習ったあと、ライフジャケットを付け、1人乗りは2人で2台の、2人乗りは2人で1艇のカヌーを岸まで運び、次々と湖に出て行った。

今年は風がかなり強いので、漕いだ割には進まないような気がした。他の方も全体的に少し進むのに苦労されていたように感じた。

皆OPALの『ピワイチ』と書いてある旗を目指して進む。1人乗りも、そして2人乗りのカヌーも、親子で声を掛けながら風を切って進む。急には止まらないので、目的の旗のそばで停止すると、時々他のカヌーに少し当たったりもあったが、誰も転覆することなく、目的の旗を目指して、外の景色を楽しみながら沖へ出ることができた。



沖からまた湖岸に戻り、勢いよく砂浜に乗り上げ、カヌーから降り、そのままカヌーとオール、そしてライフジャケットを素早く片付けた。



### 【生き物調査】

近畿大学の亀甲先生とその大学生の方は胴付長靴を装着、参加者は水に濡れてもいい長袖長ズボンや水着のレギンスなどの装備にタモ（網）、バケツを子供1人1つ持って湖岸に向かう。

岸辺に着くと、水中にいる生き物をタモでとる方法を教えてもらう。追い込むような要領で採るのだが、下は石がゴロゴロしているので、結構しっかりとした体制で、そして草履など足がむき出しでは危ないのでウォーターシューズなどで挑む。

初めは膝ぐらいの深さまでだったのだが、気付くと足の付け根や腰ぐらいの高さまで浸かって魚が居そうな場所を狙っていた。前日までのひどい雨のせいなのか、今日の強風のせいなのかは不明だが、今回の採取量は昨年比べて少々少なく感じた。2組目はまた場所を変えて採取を行った。



今回採れたのは、ヨシノボリ類、ブラックバスの幼魚、ザリガニ、スジエビ、ヌマエビ、テナガエビ、シジミ、カワニナ、タニシ類など。せっかくバケツに入れても、次を採るために持ち歩いている内に、バケツから勢いよく飛び出し、写真に収めずに採取は幻に終わる・・・という残念な事もあった。



採取したものを観察するため、採取終了を告げる。湖岸から上がる時、名残惜しそうに渋々戻って来る子だけでなく保護者の方もいらっしまった。

テラスに戻り、採集したものを透明の容器に入れ、観察。疑問に思ったことを先生に質問しては説明を受けたり、容器を様々な方向から観察したり。

先生と学生達は事前に大宮川で採取してくださったものや、今までに採取してホルマリン漬けにしたものも展示してくださったのでその説明も聞くことができた。



希望者は採集した生き物を大学生にビニール袋に入れてもらい、それぞれの家に持ち帰った。

今回は見事に晴れていて、午前中の半日とは言え、気温が高かったので参加者の体調が心配だったが、熱中症や体調不良者が出ることなく、無事終えることができた。

今回参加されたかたはこれだけで終わらず、これからも引き続き自分の手で生き物を採取し、今のびわ湖の状態を自分の目で見て、変化を観察して欲しい。そしてこれからのびわ湖について考えてほしいと思う。